

関連項目：教育活動プラン②

全校縦割り班活動の充実によって思いやりの心の育成と実践化、自尊意識の高揚を図る

目的

本校は全校生37名の小規模校であり、学級や学年の活動だけでは、社会性の育成が十分ではない。また、進学等で多人数の中に入ったとき、自分を表現できないことも考えられる。そこで、全校生で活動する場を多くしたり、縦割りで活動する場を多くすることにより、人間関係を広げるとともに、一人ひとりに活躍の場を与え、その問題を解消しようとするものである。

内容

全校縦割り班による異学年交流活動の推進

● 日常活動を縦割りで行い、活動の円滑化と異学年のふれあいを図る

- ・ なかよし給食・・・本校はランチルームに全校生と一緒に給食を食べている。
全校縦割り班(なかよし班)で一つのテーブルにつき、片付けや給食後のランチルーム清掃などを協力して行う。
上級生が下級生によく気を配るとともに下級生は上級生を見て好き嫌いを言わずによく食べるようになる。
- ・ 縦割り清掃・・・児童数が少ないこともあり、教室以外を全校生で分担し、上級生と下級生がペアになって清掃を行う。清掃の仕方を教えたり、手伝いあったりして清掃活動が効率化されるとともに異学年のふれあいが深まっている。



● 学校行事において縦割り班活動を取り入れ活動を活発化させる

- ・ 全校遠足・・・春の歓迎遠足が、その年のなかよし班の発足である。上級生と下級生がペアを作り、地域の山への登山やなかよしゲームなど、新入生歓迎の行事を行う。6年生は、リーダーとして班員や1年生に気を配ったり、なかよしゲームの進行をしたりなど、全員が何らかの役割を分担し、最上級生であることを自覚する。1年生は優しい上級生とふれ合う事で不安が和らぎ、小学生の仲間入りしたことを実感する。



- ・ 運動会・・・入場行進、リレーや競走遊戯、一輪車演技などほとんどの種目についてなかよし班で実施する。特に本校の1校1運動である一輪車においては、4月の練習始めからずっと班の中のペアで、上級生が下級生を教えたり手助けしたりして徐々に上達し、本番では全校生での集団演技を可能にする。



● 自主的な活動において所属意識や協力の喜びの高揚を図る

- ・ 全校遊び・・・児童会及び6年生を中心に毎週1～2回(火・木)の昼休みを全校遊びの日と位置づけ、全校生で遊びの種目を決めて遊ぶのである。特に低学年の児童は年間を通してとても楽しみにしている。
- ・ わくわくスポーツ・・・毎週金曜日は、朝の活動でスポーツに取り組む。時期を決めてリレー、一輪車、ボール運動、マラソン、なわとびなどを行う。マラソン以外は、なかよし班で協力したり、教えあったりして取り組んでいる。特に一輪車では、上級生の手助けによって、ほとんど乗れなかった1年生も運動会で演技をすることができるようになる。リレーやボール運動では、上級生が作戦を立てるなど、縦割り班ならではの自主的な活動ができる。



成果

小規模校の特性を生かした、縦割り活動をすることにより、上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を尊敬のまなざしで見るといったつながりが伝統となっている。だから、自分が上級生になったときは、下級生を優先し、いたわるという思いやりある行動をするのが当たり前だという意識が育ち、そう出来るようになっていく。

また、上級生では一人ひとりに役割を与え、率先して活動させることによって、全校生のために自分が役立っているという実感と責任感を持たせることができ、自尊意識が高まる。